

学校番号	学 校 名
39	東濃高等学校

令和5年度教育指導の重点及び学校経営計画

学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する。		
スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学び、自ら考え、判断し適切な行動ができる生徒 多様な価値観、個性、文化を認め、互いを尊重して行動できる生徒 変化する社会に適応して、地域に信頼され、貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせた主体的・対話的で深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と授業実践 多様な価値観や個性を持つ生徒どうしの学校生活を通して、互いを尊重し互いに認めあいながら、自己肯定感を伸長することのできる人間性の育成 地域や外部と協働し、すべての特別活動、部活動や教科学習を通じて、地域の課題を発見・解決できる「主体的・対話的で深い学び」や「探究的学び」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身に付いており、ルール・マナーが守れる生徒 多様な価値観を認め合い、他者を尊重して主体的に学べる生徒 将来、社会的に自立するために、自己の進路実現に向け意欲的に努力することができる生徒
教育指導の重点 (今年度の具体的な重点目標)	重点目標の達成に必要な具体的取組、方策		達成度の判断、判定基準あるいは評価指標
1 学習指導 ～ICT機器(タブレット)の活用や「ふるさと教育」の推進等により、生徒の「探究的な学び」を支援します～	<ul style="list-style-type: none"> ①「授業のユニバーサルデザイン化」や「評価の可視化」により、学習内容や到達目標を明確化し、生徒が主体的に取り組むことのできる授業を実践します。 ②ICT機器(タブレット)の積極的活用とともに、生徒の実態に応じた学習内容の精選により、「主体的・対話的で深い学び」を各教科で実践します。 ③「地域探究類型」におけるフィールドワーク活動や、家庭科選択科目での「みたけ華ずし」体験など、地元御嵩町との連携や外部人材の活用により、ふるさと教育を推進し、地域に愛着を持つ「地域社会人」の育成を目指します。 ④全校生徒の半数以上を占める「外国につながる生徒」に対し、学校設定教科「日本語」の開講や支援員の配置により、積極的な学習支援を行います。 ⑤2・3年次で開講している「少人数コミュニケーション講座」をさらに充実させるとともにし、その手法を他の指導にも汎用できるよう研究を重ねます。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒及び教員による授業評価 (肯定的評価70%) ①② 「高校生のための学びの基礎診断」の結果 (前年比5%向上) ② 教員による授業評価 (実施回数1回以上) ③ アンケート実施 (生徒の満足度70%) ④ 日本語能力を測る検定試験 (各個人が前年より上級習得) ⑤ 受講生徒による振り返りシート (各個人の満足度80%)
2 進路指導 ～自己理解を進め、自己の在り方生き方を促すキャリア教育を推進します～	<ul style="list-style-type: none"> ①演劇表現ワークショップやキャリア教育プログラムをはじめ、学校生活の様々な場面の中でコミュニケーション能力を培い、他者との望ましい人間関係の構築を促します。 ②類型や選択科目により多様な進路希望に応えるとともに、進路ガイダンス等を通じて自己のキャリア形成を支援します。 ③御嵩町や国際たくみアカデミー等との連携により、進路目標実現に向けてのスキルの習得を促します。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 講師等への意見聴取 (肯定的評価の有無) ① 生徒対象アンケート (肯定的評価70%) ② 学校評価アンケート (肯定的評価70%) ③ 連携講座の実施 (実施回数10回)

<p>3 生活指導・特別教育活動 ～社会に出て、自立できる生徒を育てます～</p>	<p>①「『あじみ』のできる学校」をキャッチフレーズに、挨拶の励行、時間を守る行動、身なりを正すことに重点を置くとともにマナーの向上を図り、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指します。</p> <p>②全職員が共通理解のもと、すべての教育活動を通して「誰もが同じ」で「見逃さない」公平な指導を目指します。</p> <p>③部活動やボランティア活動を充実して自己肯定感を育てながら、活気ある学校づくりと思いやりあふれる心の育成につなげます。</p>	<p>❶ 学校関係者評価 (肯定的評価70%)</p> <p>❷ 生徒対象アンケート、挨拶運動に参加した保護者への意見聴取 (肯定的評価の有無)</p> <p>❸ ボランティア参加人数 (延べ100人以上の参加)</p>
<p>4 勤務環境の整備 ～教職員が健康でいきいきと生徒と向き合えるための学校づくりを進めます～</p>	<p>①出退勤管理システム等の活用により教職員の適正な勤務時間の管理を行い、過重な勤務状況を把握し、各職員への声かけや指導を徹底します。</p> <p>②定時退庁日(「早く家庭に帰る日(8のつく日)」や「ノー残業デー(別途計画)」の徹底や計画的な休暇の取得促進により、教職員の業務の効率化や健康管理への意識を高めます。</p> <p>③ストレスチェックやハラスメント調査を定期的に行うとともに、「HELPが言える職場」であると同時に「HELPに応えられる職場」であるよう、管理職をはじめ職員相互の高い信頼関係に基づいた「同僚性」の高揚に心がけます。</p>	<p>❶ 時間外勤務時間が月45時間を超える職員数 (前年比50%減→基本目標0人)</p> <p>❷ 年次休暇の取得状況 (取得日数5日未満の職員数0人)</p> <p>❸ 疲労蓄積度自己診断チェックリスト (総合判定6以上の職員数0人)</p>